



生命環境系 大井 洋 教授

私が本学に助手として着任したのは 33 歳の時で、今年で 58 歳になります。教育と学問を本務とする大学に着任いたしましたので、当時は自由闊達に院生と議論しながら過ごしておりました。妻が職業を持っていたおかげで、自分は民間企業を退職し、博士課程に戻って学位を取ることができました。本学着任後も子育ての傍ら、少年柔道と学生ラグビーの応援を熱心にやってきましたので、25 年間大学に貢献してきたとは到底言えません。

一方、この 25 年間のほとんどは日本の「失われた 20 年」で、2011 年 3 月 11 日以降はさらに重大な時に突入しました。皆様のご支援により、准教授・教授と昇任することができましたが、本学と社会に少しでも貢献することができたのか、反省しております。

勤務 25 年目を迎え、同僚と家族に心から感謝しております。残る数年間、学生と若い同僚を見習って、再度自分の役割をしっかりと見つめなおし、本学と社会のために尽力してまいります。



昨年 11 月インドネシア・バンドン市での国際学会に参加した際の空港にて、院生・同僚と（左から 4 番目が大井）